

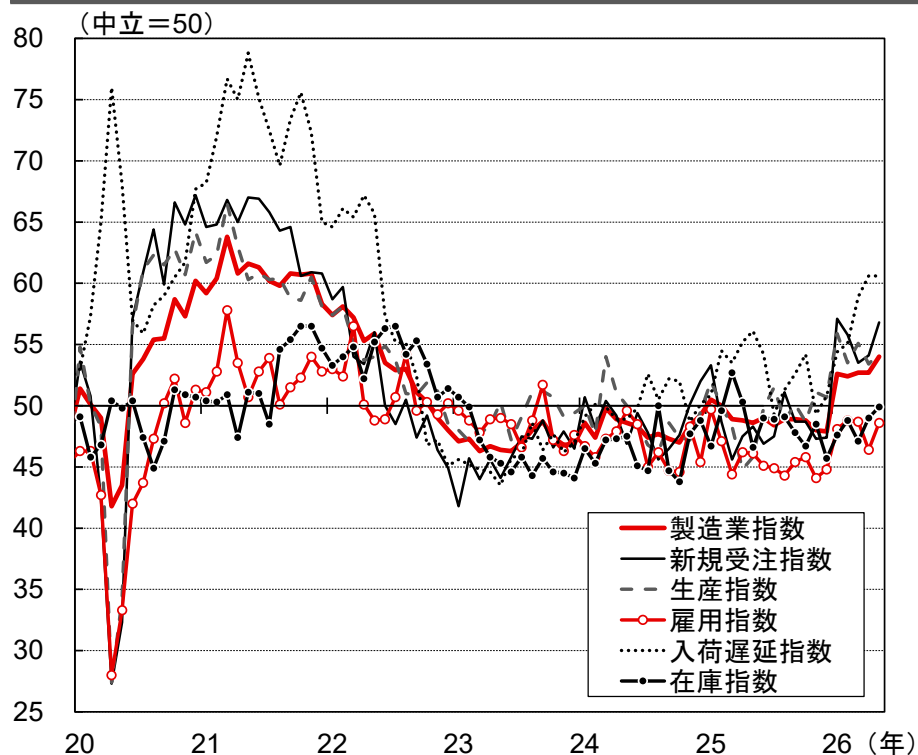
米国経済・金融概況 (2026年6月)

2026年6月30日
経営企画部経済調査室(ニューヨーク)

1. 企業活動

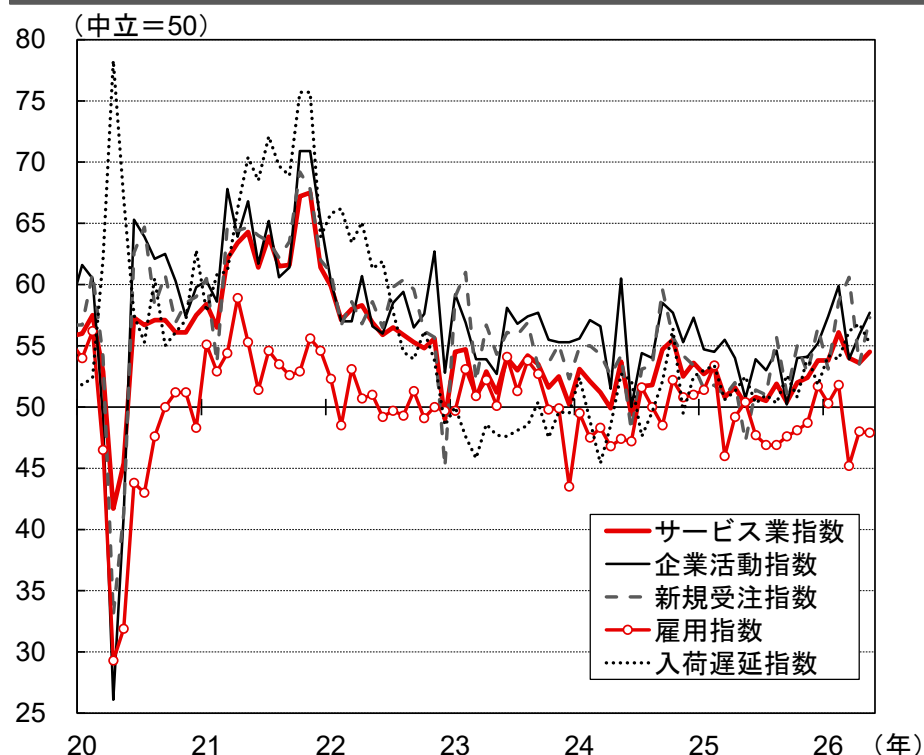
- 製造業の景況感・活動状況を表すISM製造業指数(総合)は5月に54.0(前月比+1.3ポイント)と2ヵ月ぶりに上昇。指数の構成項目をみると、先行指標の新規受注指数(56.8、同+2.7ポイント)が上昇したほか、雇用(48.6、同+2.2ポイント)、生産(54.3、同+0.9ポイント)、在庫(49.9、同+0.9ポイント)も上昇。また、価格は82.1(同▲2.5ポイント)と低下したものの、依然として高水準で推移。産業別では全18産業のうち16産業が拡大、1産業が縮小、1産業が横這いを報告(4月は13産業が拡大、3産業が縮小、2産業が横這い)。
- 5月のISMサービス業指数(総合)は54.5(前月比+0.9ポイント)と3ヵ月ぶりに上昇。入荷遅延(55.2、同▲1.6ポイント)、雇用(47.9、同▲0.1ポイント)は低下した一方、新規受注(57.3、同+3.8ポイント)、企業活動(57.7、同+1.8ポイント)は上昇。また、価格は71.3(同+0.6ポイント)と上昇。ISMは、石油関連製品が新たに価格上昇品目として回答企業から挙げられたと指摘。産業別では全18産業のうち17産業が拡大、1産業が縮小を報告(4月は14産業が拡大、3産業が縮小、1産業が横這い)。

ISM製造業指数の推移



(資料)ISM(全米供給管理協会)統計より三菱UFJ銀行経済調査室作成

ISMサービス業指数の推移

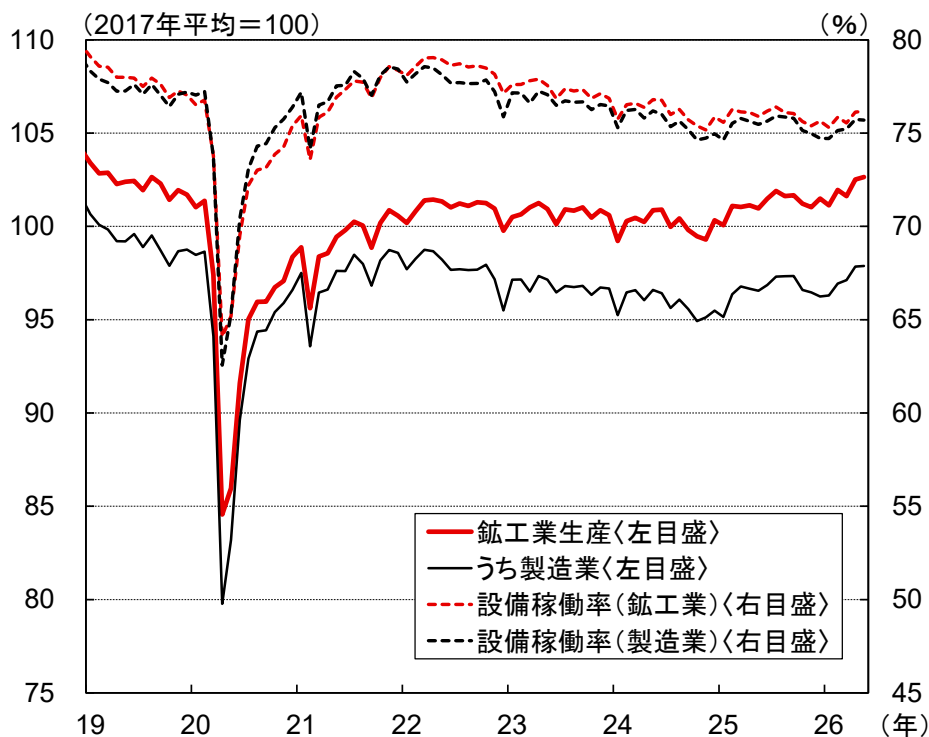


(資料)ISM(全米供給管理協会)統計より三菱UFJ銀行経済調査室作成

2. 生産

- 5月の鉱工業生産は前月比+0.1%と2ヵ月連続で増加。産業別では、全体の約7割を占める「製造業」が同+0.0%と横這い。内訳をみると、「自動車・同部品」は同+1.2%と2ヵ月連続で増加したほか、「一次金属」(同+1.3%)、「コンピュータ・電子製品」(同+0.9%)、「電気機器・家電」(同+0.5%)等が増加。また、「鉱業」は同+1.3%と2ヵ月連続で増加した一方、「公益事業(電気・ガス)」は同▲0.4%と2ヵ月ぶりに減少。5月の設備稼働率は76.2%、うち「製造業」は75.7%とそれぞれ前月から横這い。
- 5月の耐久財受注は前月比▲4.5%と3ヵ月ぶりに減少。内訳をみると、変動の大きい「民間航空機」(同▲51.8%)が、前月の急増(4月:同+167.4%)の反動もあって大幅に減少し、全体を押し下げたものの、これを除くと、「一次金属」(同+3.0%)、「機械」(同+1.9%)、「金属製品」(同+1.5%)、「コンピュータ・電子製品」(同+0.3%)等の幅広い業種で増加。設備投資の先行指標であるコア資本財受注(非国防資本財受注、除く航空機)は同+1.6%と2ヵ月ぶりに増加。

鉱工業生産と設備稼働率の推移



(資料) FRB統計より三菱UFJ銀行経済調査室作成

耐久財受注の推移

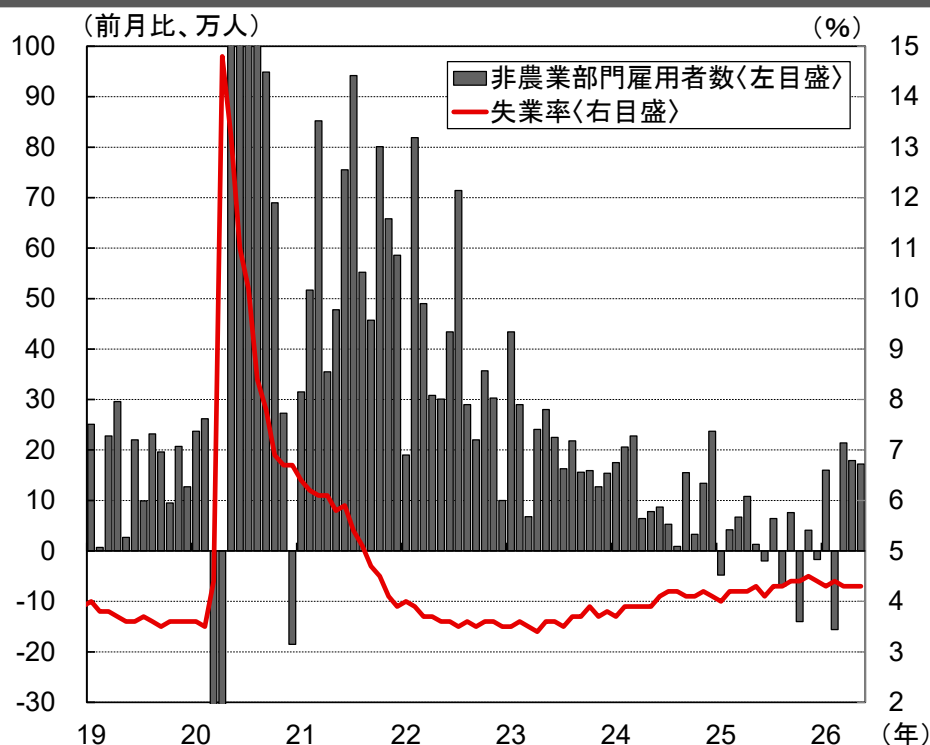


(資料) 米国商務省統計より三菱UFJ銀行経済調査室作成

3. 雇用

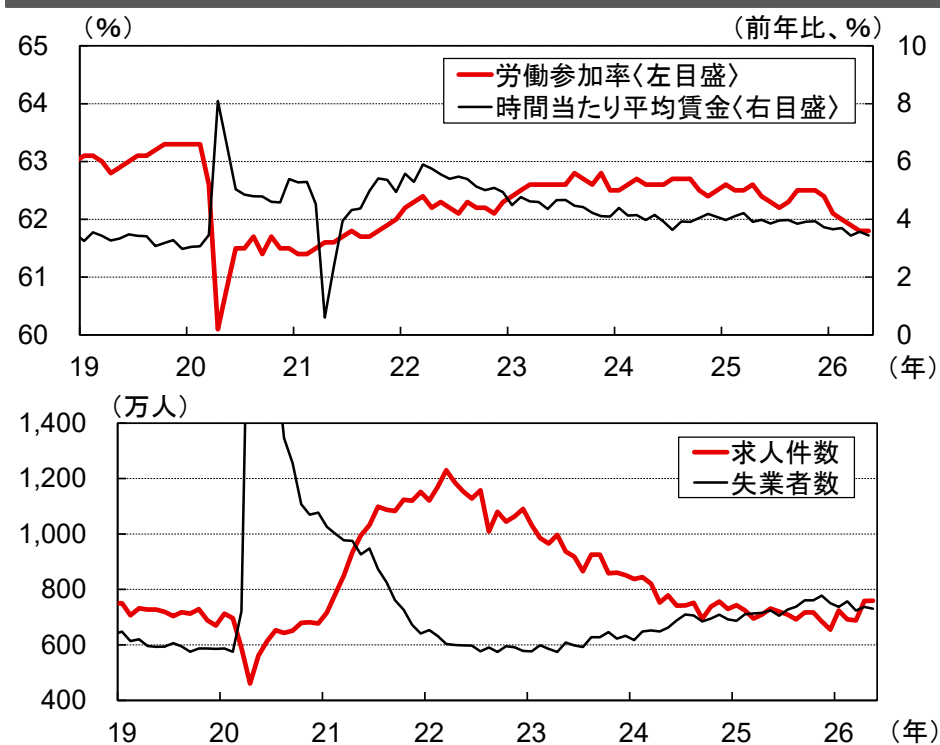
- 5月の非農業部門雇用者数は前月比+17.2万人と市場予想(Bloomberg集計:同+8.8万人)を大幅に上回る伸び。また、前月分は同+11.5万人から同+17.9万人に上方改定。業種別にみると、「レジャー・接客」(同+7.0万人)、「政府」(同+5.2万人)、「医療・社会扶助」(同+4.7万人)、「建設業」(同+1.7万人)、「製造業」(同+0.7万人)が増加。
- 5月の失業率は4.3%、労働参加率は61.8%とそれぞれ前月から横這い。時間当たり平均賃金(民間部門)は前年比+3.4%と前月(同+3.6%)から減速。
- 5月の求人件数は759.4万件(前月比+0.9万件)と小幅増加。求人件数を失業者数で割った求人倍率は1.04倍(前月:1.03倍)と2ヵ月連続で1倍を上回った。

非農業部門雇用者数・失業率の推移



(資料) 米国労働省統計より三菱UFJ銀行経済調査室作成

労働参加率・平均賃金・求人件数・失業者数の推移

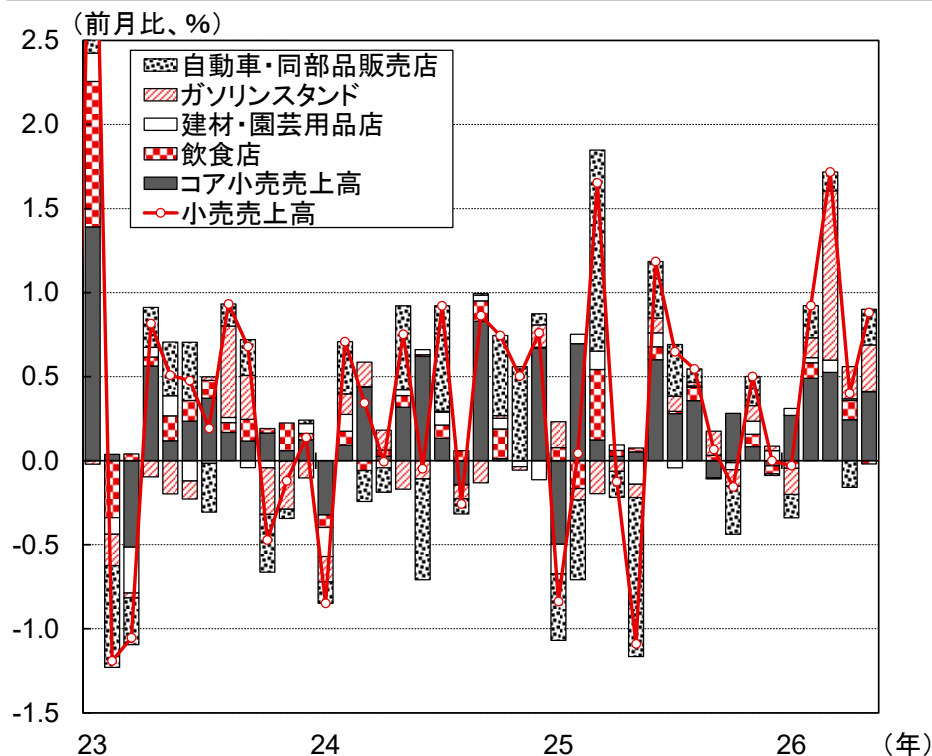


(資料) 米国労働省より三菱UFJ銀行経済調査室作成

4. 個人消費

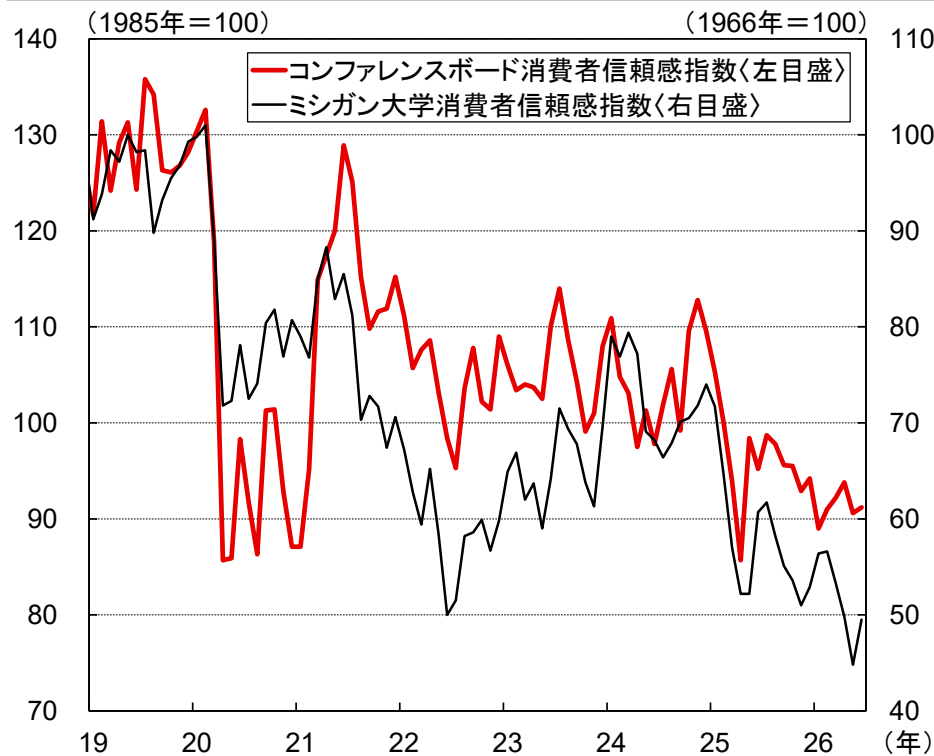
- 5月の小売売上高は前月比+0.9%（前月：同+0.4%、改定値）と4ヵ月連続で増加。また、コア売上高（自動車、ガソリン、建設資材、食品サービスを除く）は同+0.7%（前月：同+0.5%）と増加し、堅調を維持。業種別にみると、「ガソリンスタンド」（同+3.4%）、「無店舗小売店」（同+1.5%）、「自動車・同部品店」（同+1.2%）、「家具販売店」（同+1.0%）が増加。一方、「電子機器・家電販売店」（同▲0.5%）、「飲食店」（同▲0.1%）は減少。
- 6月のミシガン大学消費者信頼感指数は49.5（前月比+4.7ポイント）と4ヵ月ぶりに上昇、コンファレンスボード消費者信頼感指数は91.2（同+0.6ポイント）と2ヵ月ぶりに上昇。ガソリン価格の下落を受け、消費者マインドが改善したとミシガン大学は指摘。ミシガン大学の期待インフレ率は、1年先が4.6%（前月：4.8%）、5-10年先は3.3%（前月：3.9%）とそれぞれ低下。

小売売上高の推移



(資料)米国商務省統計より三菱UFJ銀行経済調査室作成

消費者信頼感指数の推移

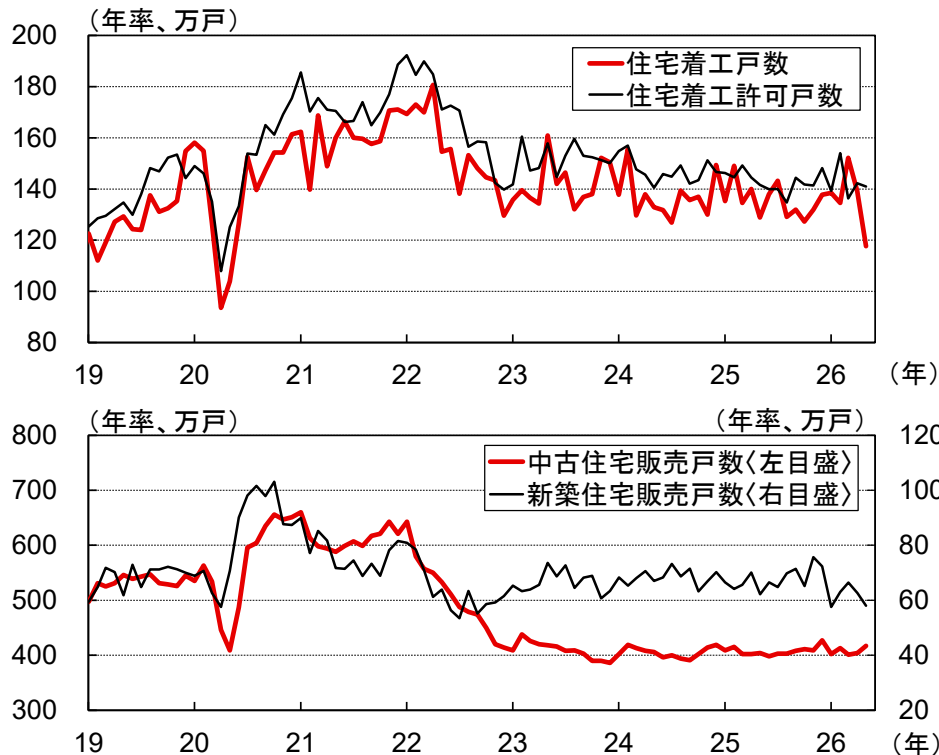


(資料)コンファレンスボード、ミシガン大学統計より三菱UFJ銀行経済調査室作成

5. 住宅

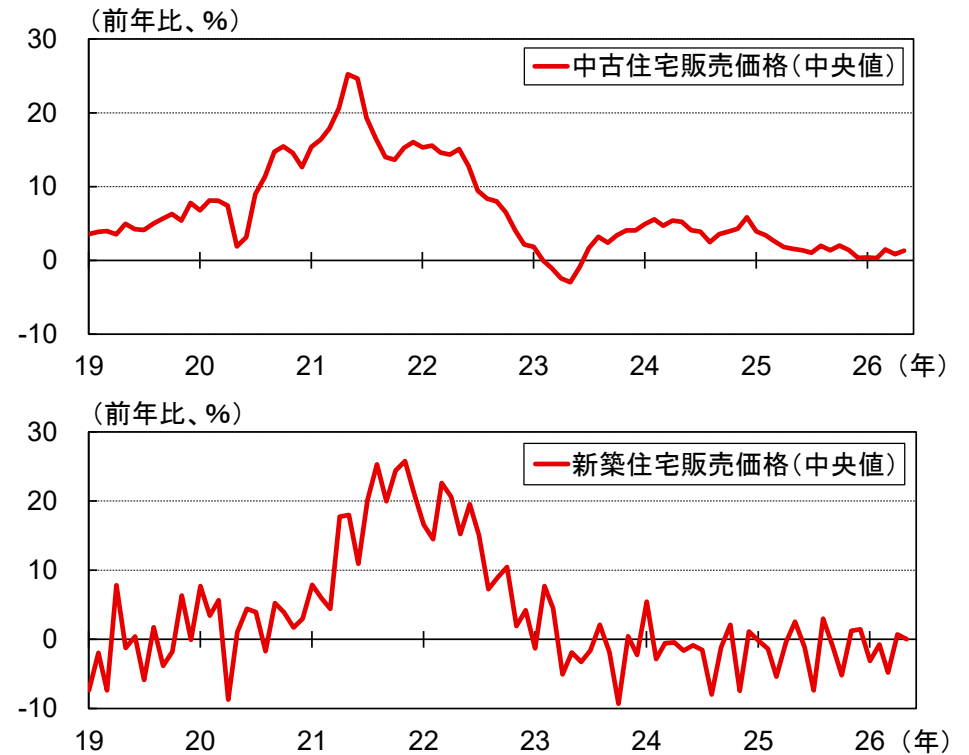
- 5月の住宅着工戸数は前月比▲15.4%(4月:同▲8.5%)の年率117.7万戸(季節調整済)と大幅に減少。内訳をみると、一戸建住宅は同▲1.9%(4月:同▲11.6%)の年率88.2万戸と2ヵ月連続で減少、変動の大きい集合住宅(5世帯以上)は同▲41.6%(4月:同+1.0%)の28.4万戸と大幅に減少。先行指標である住宅着工許可戸数は同▲0.9%(4月:同+4.4%)の年率141.0万戸(季節調整済)と2ヵ月ぶりに減少。
- 5月の中古住宅販売戸数は前月比+3.2%の年率417万戸(季節調整済)と2ヵ月連続で増加した一方、新築住宅販売戸数は同▲7.3%の年率58.0万戸(季節調整済)と2ヵ月連続で減少。
- 5月の中古住宅販売価格は429,300ドル(中央値)、前年比+1.3%(4月:同+0.8%)と伸びが加速した一方、新築住宅販売価格は424,900ドル(中央値)、同+0.0%(4月:同+0.7%)と伸びは横這い。

住宅着工戸数・許可戸数・住宅市場指数・住宅販売戸数の推移



(資料)米国商務省、全米不動産業協会統計より三菱UFJ銀行経済調査室作成

住宅販売価格の推移

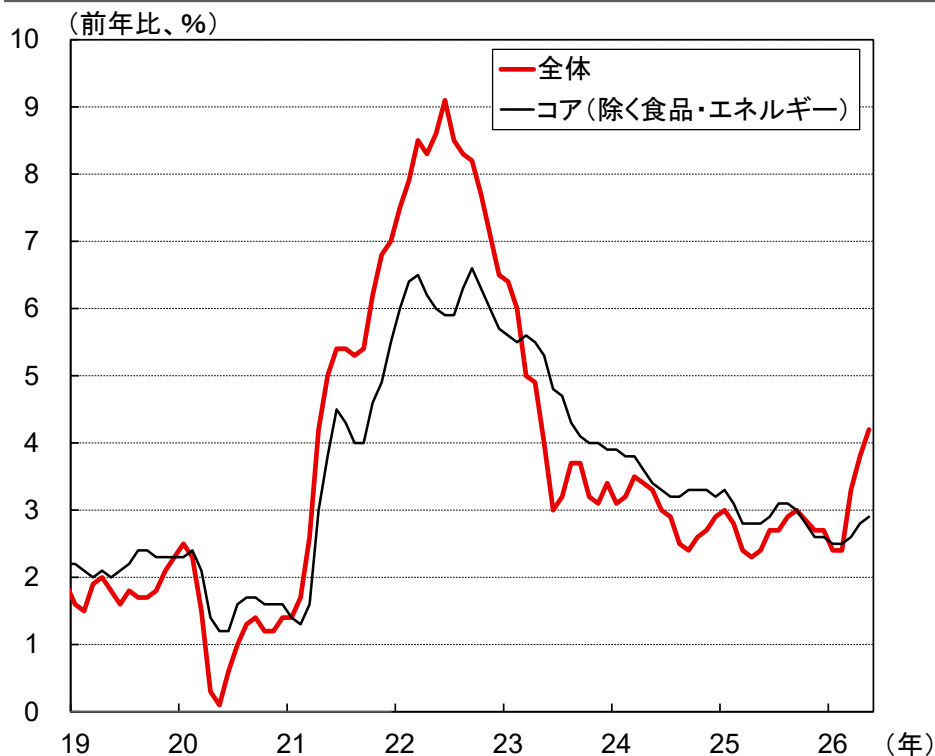


(資料)全米不動産業協会、米国商務省統計より三菱UFJ銀行経済調査室作成

6. 物価

- 5月の消費者物価指数は、総合指数が前年比+4.2%(4月:同+3.8%)と2023年4月以来の高い伸びとなったほか、食品とエネルギーを除いたコア指数も同+2.9%(4月:同+2.8%)と3ヵ月連続で伸びが加速。品目別にみると、「食品」は同+3.1%(4月:同+3.2%)と減速した一方、「エネルギー」は同+23.5%(4月:同+17.9%)と大幅に加速。また、コア指数の構成項目のうち、「航空運賃」は同+26.7%(4月:同+20.7%)と大幅に加速し、「衣料品」も同+4.8%(4月:同+4.2%)と加速。また、「中古車」は同▲2.0%(4月:同▲2.7%)と下落幅が縮小。
- 5月の生産者物価指数は前年比+6.5%(4月:同+5.7%)と伸びが大幅に加速した一方、食品とエネルギーを除いたコア指数は同+4.9%と前月から横這い。内訳をみると、「財」は同+10.4%(4月:同+7.5%)、うち「エネルギー」は同+36.6%(4月:同+22.7%)と大幅に加速。また、「サービス」は同+4.9%(4月:同+5.0%)と伸びが小幅減速。

消費者物価指数の推移



(資料)米労働省統計より三菱UFJ銀行経済調査室作成

生産者物価指数の推移



(資料)米労働省統計より三菱UFJ銀行経済調査室作成

7. 国際収支

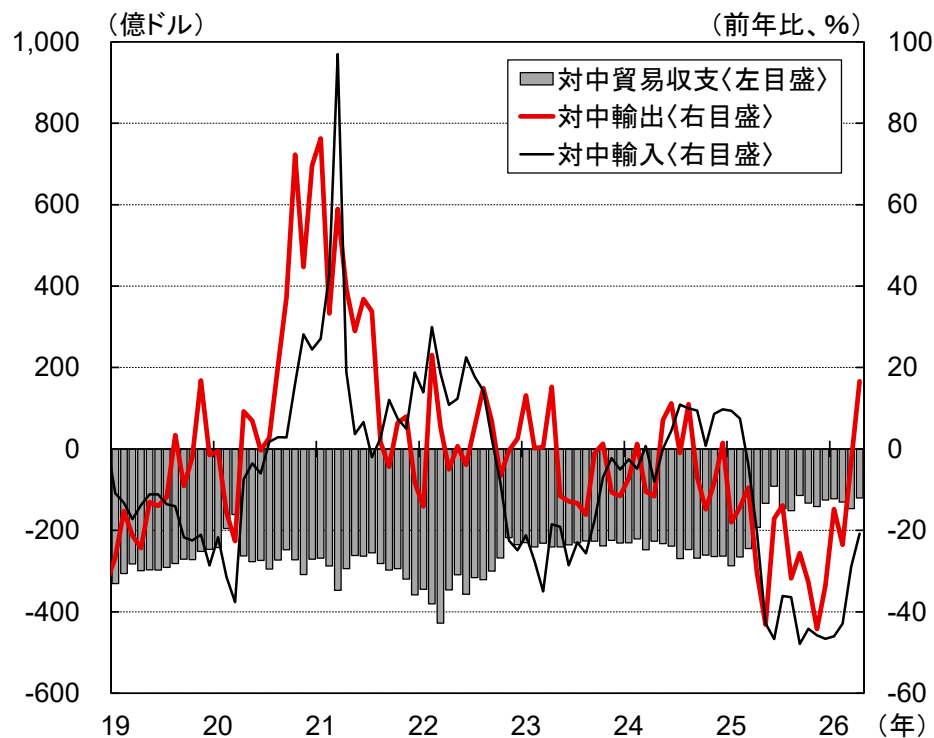
- 4月の貿易収支(財・サービス)は559億ドルの赤字となり、赤字幅は前月比▲1.2%(同▲7億ドル)と3ヵ月ぶりに縮小。輸出は同+2.6%(同+83億ドル)、うち原油は同+64億ドルと大幅に増加。輸入は同+2.0%(同+76億ドル)と3ヵ月連続で増加。前年比でみると、輸出は+12.6%、輸入は+9.1%。
- 財の貿易収支を国・地域別でみると、中国は4月に120億ドルの赤字となり、赤字幅は前月比▲17.8%(同▲26億ドル)と3ヵ月ぶりに縮小。対中輸出(財)は同▲2.4%(同▲2億ドル)、対中輸入は同▲11.4%(同▲29億ドル)とそれぞれ減少。前年比でみると、対中輸出(財)は+16.6%と16ヵ月ぶりに増加した一方、対中輸入(財)は▲20.8%と減少。
- 対台湾の貿易収支の赤字幅は193億ドル(前月比▲15億ドル)、対メキシコは148億ドル(同▲19億ドル)、対EUは72億ドル(同▲18億ドル)、対日本は28億ドル(同▲12億ドル)とそれぞれ縮小。一方、対カナダは62億ドル(同+24億ドル)と拡大。

貿易収支と輸出入(財・サービス)の推移



(注) 国際収支ベース。貿易収支は季節調整後。輸出入の前年比も季節調整後の数値を元に算出。
(資料) 米国商務省統計より三菱UFJ銀行経済調査室作成

対中貿易収支と対中輸出入(財)の推移



(注) 通関ベース。貿易収支は季節調整後。輸出入の前年比も季節調整後の数値を元に算出。
(資料) 米国商務省統計より三菱UFJ銀行経済調査室作成

8. 金融市場動向

- 6月16-17日のFOMCでは、4会合連続となる政策金利の据え置きが決定。参加者による政策金利見通しによれば、9人が年内に少なくとも1回の利上げを見込んでおり、こうしたタカ派的な内容を受けて、金融市場では年内の利上げ期待が強まった。
- 10年物国債利回りは、6月中旬にかけてはFOMCを受けた利上げ期待の高まりを背景に上昇。一方、その後はホルムズ海峡の航行正常化に向けた動きを受けて原油価格が下落し、インフレ懸念が後退したことから、低下。
- S&P500は、6月初めには米・イラン間の軍事衝突激化を受けた原油高や金利上昇が重しとなり下落。その後は、戦闘終結期待から投資家心理が改善し株価は持ち直したものの、月後半にはAI関連投資の先行きに対する警戒感やハイテク株への利益確定売りが重石となり、方向感に欠ける展開となった。

10年物国債利回りの推移



(資料) Macrobondより三菱UFJ銀行経済調査室作成

S&P500種株価指数の推移



(資料) S&Pより三菱UFJ銀行経済調査室作成

当資料は情報提供のみを目的として作成されたものであり、何らかの行動を勧誘するものではありません。
ご利用に関しては、すべてお客様御自身でご判断下さいますよう、宜しくお願い申し上げます。当資料は信頼できる
と思われる情報に基づいて作成されていますが、当行はその正確性を保証するものではありません。
内容は予告なしに変更することがありますので、予めご了承下さい。また、当資料は著作物であり、著作権法により
保護されております。全文または一部を転載する場合は出所を明記して下さい。

会社名：株式会社三菱UFJ銀行 経済調査室(ニューヨーク)
1251 Avenue of the Americas, New York, NY 10020, USA

照会先：ウォルショー 瞳 e-mail: hwalshaw@us.mufg.jp